

慣用表現力を鍛える：基本的考え方と「驚き」の慣用表現

田中茂範

ココネ言語教育研究所

基本的な考え方

「英語の慣用表現」と聞いて何を思い浮かべるでしょうか。イディオム、熟語、成句、句動詞、定型表現、諺などいろいろな言い方がありますが、これらはすべて慣用表現です。また、英会話の勉強では必ず出てくる「依頼する」や「提案する」などの「機能表現」も慣用表現です。ランダムに英語の慣用表現をリストすれば、**generally speaking**（一般的にいうと）、**as a result**（その結果として）、**in the end**（ついには）、**look up to...**（～を尊敬する）、**hold back**（尻込みする）、**poor as a church mouse**（とても貧しい）、**Give me a break.**（いいかげんにしろ）、**How about?**（～はどうですか）、**It doesn't matter if**（～かは問題ではない）、**cannot help -ing**（～せざるをえない）、**had better**（～したほうがよい）、**It's no use crying over spilt milk.**（覆水盆に返らず）、**Why don't you?**（～してはどうですか）など多種多様な表現が含まれます。

みなさんは、こうした慣用表現をどのようにして学習しているでしょうか。大学生に聞いてみると、「熟語帳を覚える」と「教科書に出てきた熟語を覚える」の2つが主な学習方法でした。次に、「熟語をうまく使うことができるか」と聞くと、残念ながら「覚えたけど、うまく使えない」という回答が圧倒的に多くみられました。そして、「英語学習の中での慣用表現がどれくらい大切と思うか」という質問には、「どちらかといえば覚えたほうがいいけど、単語や文法のほうが重要」という回答が目立ちました。みなさんはいかがでしょう。

私たちは、日々の会話で、その都度、単語と文法を使って、自由に表現を作りだしています。これを「自由表現（free expression）」といいます。しかし、どの言語にも非常にたくさんさんの慣用表現があります。イエスペルセン（Otto Jespersen[オランダの著名な言語学者]）によると、言語は自由表現（free expression）と慣用表現（formula）を両輪として機能します。私も、この考え方に賛成です。そこで、英語力を高めるためには、自由表現を作るための文法力と単語力と同様に、慣用表現力にも注目する必要があると考えます。

慣用表現を有効に使って思いを表現する力、これが「慣用表現力」です。慣用表現力があれば、意図（言いたいこと）を最も的確に表現することができます。例えば、謝罪する際に日本語では「どうもすみません」（英語だと I'm sorry.）とありますが、これは謝罪の気持ちを端的に表す慣用表現です。

この連載では、いろいろな慣用表現を取り上げていきます。強調したいポイントは、慣用表現を自分の英語力の一部にするには、慣用表現をバラバラに暗記するのではなく、関連づ

けて「慣用表現ネットワーク」として学ぶということです。慣用表現がネットワークのように整理されていれば、それはみなさんの英語のレパートリーとなるはずでず。以下では、第一弾として「驚き」を表すための慣用表現を取り上げます。

「驚き」を表す慣用表現

驚きは、うれしい驚きもあれば、悲しい驚き、信じられない驚き、偶然の驚きなどがあります。驚きを表現する慣用表現を自分のものにするには、慣用表現のネットワークを作るのが効果的です。驚き表現の場合、ネットワークを作成する際の基準はタイプ分けです。まず第1に、「えっ?!」「何!」など驚きの間投詞を使う場合、第2に、「驚いたこと」を「ああ、びっくりした」と言語で表現する場合、第3に、「(驚いたけど)それは本当?」と真偽を確認する場合、第4に、偶然の出会いなどで驚きを表現する場合、第5に、相手を驚かしておいて、「驚いた?」と聞く場合、そして第6として、驚いたことを回想して「あれは〜のような驚きだった」と描写する場合があります。こうしたいろいろな場合での驚きを表す慣用表現をネットワークにまとめれば以下のようにになります。

1. 間投詞を使う

Wow! うわー!

What! 何!

Holy cow! 何てこった!

2. 驚いたとことを表現する

What a surprise! びっくりした!

That's amazing. それは驚きだ

Incredible! 信じられない

That's unbelievable.

4. 偶然の出会いで驚く

What a coincidence? 偶然だね

Wow, it's a small world.

わっ、世の中って狭いね

「驚き表現」

3. 本当かと問う

Really? 本当

That can't be true. まさか!

Are you sure? 確か?

Are you serious? マジ?

5. 相手に驚いたかと聞く

Are you surprised? 驚いた?

Isn't that a surprise? びっくりだよ

Can you believe it? 信じられる?

6. 驚きを事後的に描写

a bolt from the blue 晴天の霹靂

do a double take 驚いて自分の目を疑う

jump out of one's skin 死ぬほど驚く

驚きの表現をうまく使うには、見たり、聞いたりしたことに対して素早く反応することが肝心です。そう、瞬発力が必要なのです。一見簡単そうな表現も、タイミングよく使おうと思えばむずかしいもの。状況の中に身を置いて、感情を込めて、表現する訓練をしておく必要があります。以下、具体例をあげながら、「驚き」の慣用表現の使い方をみていきます。

例えば、A と B の共通の友人のフレッド（結婚なんてありえないと思っていた男）がいよいよ結婚することになったという状況で交わす会話です。

A: Fred is getting married. フレッド、結婚することになったよ

B: Wow! Really? Are you sure? 何！本当？確かなの？

A: Yeah, I heard it from Fred's father. 確かだよ。フレッドのお父さんから聞いたんだ

B の反応では、間投詞の Wow!に加えて、真偽を確かめる Really?や Are you sure?を使っています。慣用表現力を身に付けるには、これらの表現に驚きの気持ちを乗せる訓練をしておく必要があります。状況を思い描いて、気持ちを込めて、B になりきって練習してみてください。なお、Holy Cow! (Holy Christ!の婉曲表現) という言い方がありますが、驚きを表す間投詞として英米問わず広く使われているようです。

もう一つ会話例をみてみましょう。体重を気にしている姉妹の会話です。下線部が驚きの慣用表現です。

A: Wow! I lost three kilos. うわー！3キロも減ったわ

B: Really? Let me see that scale. 本当？体重計、みせて。

A: See. ほらね。

B: That can't be true. ウソでしょう！

A: Look, it says 52. 見て、52キロですって

B: No kidding! You did lose three kilos. うそ、本当に3キロ痩せている

A: This diet must be working. このダイエット、効果があるのね

B: Unbelievable. Three kilos a week! 信じられない、一週間に3キロだなんて

ここでは、双方が驚いている様子を見てとることができますね。ここでもポイントは感情を込めて下線部の表現を使うことですが、練習相手がいるといいですね。

驚くといっても、旧友に全く予期しないところで遭遇し、「えっ？偶然だね」だとか「世の中狭いね」に当たるのが Wow! What a coincidence! や It's a small world. です。以下は、マドリッドで偶然出会った二人の会話です。

A: Oh, my gosh, Sanae? あれ、驚いたな、早苗じゃない？

B: Johnny? What an incredible coincidence! What are you doing in Madrid? ジョニ

ー？なんて偶然なの！一体マドリッドで何してんの？

A: I was transferred to the Madrid office a week ago. I'm in charge of the sales department. 一週間前にマドリッド支部に転勤になってね。今、営業部をまかされているんだ。

B: Really? That's amazing. 本当！すごいじゃない。

A: What about you? Are you here on vacation? 君は？休暇で来ているの？

B: Actually, I quit my job and came here to study art for a couple of years. 実は、仕事を辞めてね、それで2、3年ほど絵を勉強するために来たの

A: Wow, no kidding! That's great. わあっ、マジかい！ それはすごいね

B: Thanks. Hey, do you have time for a coffee? ありがとう。ねえ、ちょっとコーヒーでも飲まない？

日本語でも偶然の出会いで驚いたときは、自然と表現に感情がこもります。英語では、少し、オーバーなくらいに感情を込めて、表現する練習をしておくといいですね。

日本語に「晴天の霹靂」という言い方がありますが、それに近いのが **a bolt from [out of] the blue** です。a bolt は a thunderbolt の bolt で「稲妻、電光」の意味です。「霹靂」も「急に激しく雷が鳴ること」を表し、同じ考え方に基づく表現ですね。この **a bolt from the blue** は、あることが驚きだったと回想的に述べる際に、**The chairman's resignation came as a bolt from the blue.** (会長の辞任は晴天の霹靂だった) のように使います。また「死ぬほど驚く」に近いのが **jump out of one's skin** で、日本語にはありませんが「皮膚から飛び出す」という感じです。「見知らぬ男が窓から頭を入れているのを見て、彼女は死ぬほど驚いた」という状況を **She jumped out of her skin when a strange man put his head through the window.** と表現することができます。目を疑うような驚きの際には「2度見する」ことがありますが、英語では、**do a double take** という言い方があります。**He did a double take when he saw his fiancé in a restaurant with another man.** といえば「彼は婚約者がレストランで別の男といるのを目撃して、自分の目を疑った」という意味です。この **take** は名詞で「撮影のテイク」に近い意味合いだと思われます。「二度撮りをする」ということから「自分の目を疑う」という意味になるのだらうと思います。